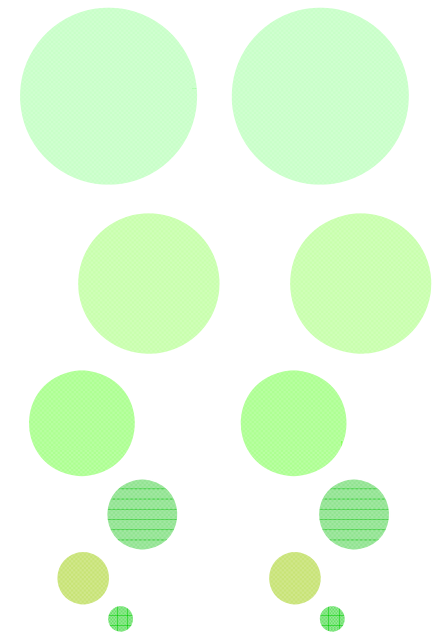


社会資本整備審議会住宅宅地分科会 ～子育て世代の住居について～

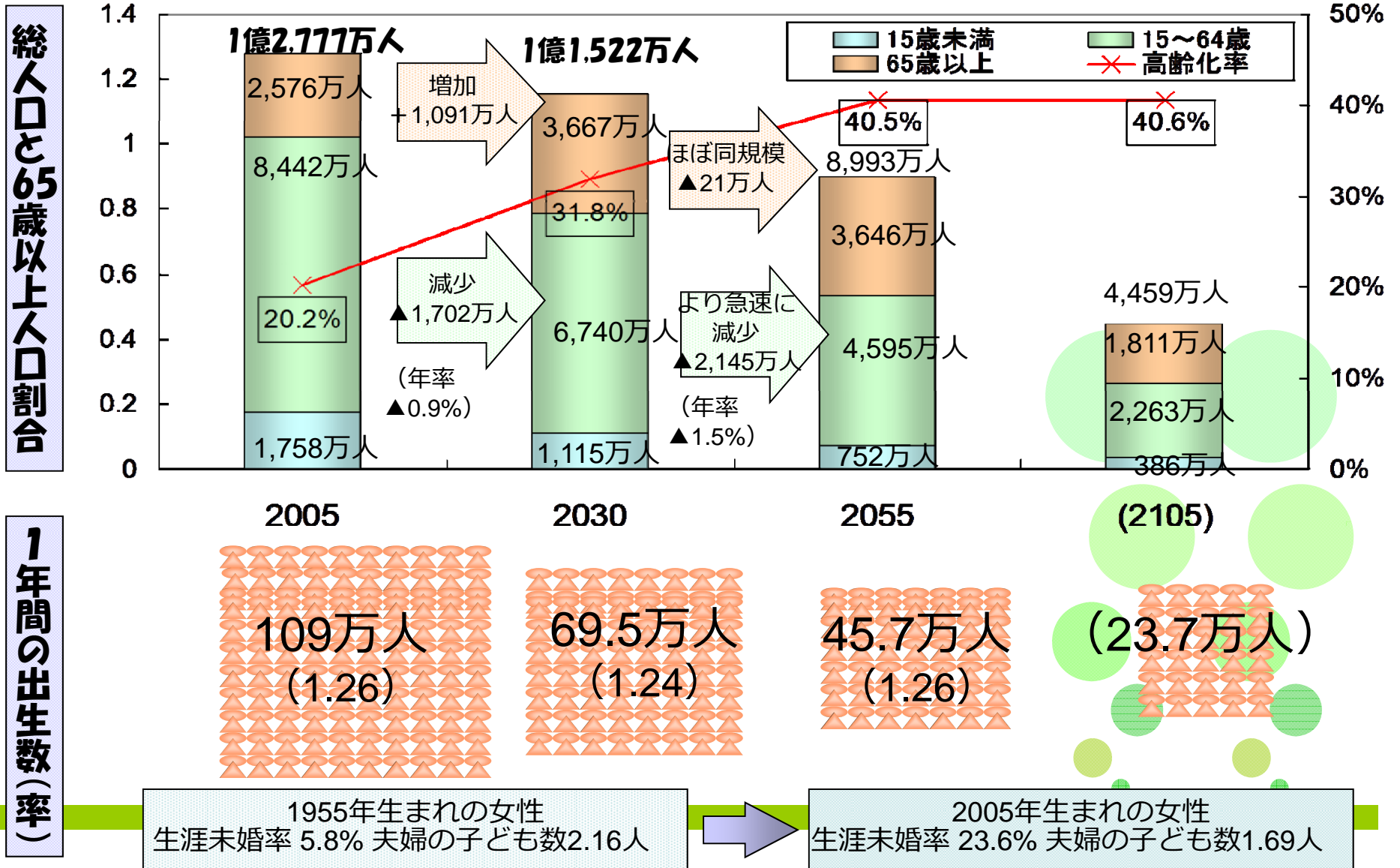
特定非営利活動法人びーのびーの
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
にっぽん子育て応援団

奥山千鶴子

●少子化の現状から



急速な人口減少と高齢化が同時進行



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」(出生中位、死亡中位の場合)

少子・高齢化は他の主要国と比較しても非常に急速

《人口構造の変化(少子・高齢化)に関する見通しの比較》

	高齢化率の現状と見通し			出生率の現状と見通し	
	2005年 (実績)	2030年 (国連推計値)	2050年 (国連推計値)	2008年 (実績)	2050年仮定 (各国人口推計)
日本	20.1%	31.8%	40.0%	1.37	1.26
アメリカ	12.4%	19.4%	21.0%	2.12(2007)	2.22
イギリス	16.1%	21.6%	24.1%	1.94	1.74
フランス	16.4%	23.2%	25.9%	2.02	1.90
ドイツ	19.2%	27.3%	30.2%	1.38	1.40
スウェーデン	17.2%	22.8%	24.1%	1.91	1.85

(注) 高齢化率: OECD "OECD in Figures 2007" (2005実績), UN "World Population Prospects The 2006 Revision" (2030,2050推計値)

(日本は 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」による。また推計値は各国ともいずれも中位推計値)

出生率: 各国人口統計及び将来推計人口から作成(2050年の仮定値はいずれの国も中位の仮定値)

どうしてこんなに少子化なのか??

■ 結婚のハードル

すべてを投げうてない! (女性の声)

経済基盤、雇用・キャリアの将来の見通し、安定性

妻子を養えない! (男性の声)

出会えない! 忙しい! 結婚がすべてではない!

■ 出産のハードル

子育てしながら、就業継続できる見通しがたたない、長時間労働

第1子 会社の制度

第2子 夫婦間の家事・育児の分担度合い

第3子 経済的余裕 勢い? **小さい子どもの世話をしたことがない母親は半分!**

■ 子育ての孤立化・負担感

働いてるか働いていないかに関わらず、子育て家庭の負担は大きい 核家族化

■ 子ども・子育てにやさしくない社会

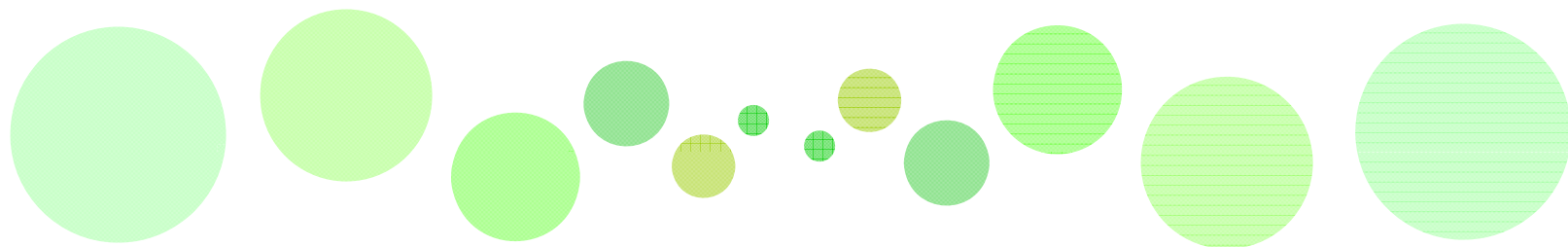
親がやってあたりまえ? しつけがなっていない? 萎縮する・開き直る家庭

■ 諸外国と比較して低い水準の子ども・家族関係の支出

日本の家族関係社会支出の対GDP比は、欧米諸国と比較しても低い水準
(フランス、イギリス、スウェーデンの1/3以下)

●事業の紹介

子育てにちょっと苦勞。。。
だからNPOをたちあげた



NPO法人びーのびーの設立の経緯 ①

●連絡先:〒222-0037 横浜市港北区大倉山3-57-3
電話:045-540-7422 URL:<http://www.bi-no.org>
Fax:045-540-7421 E-mail:admin@bi-no.org

●ひろば事業開始年月日:
2000年(平成12年)4月19日

●沿革:

2000年 2月	NPO法人化
2000年 4月	おやこの広場オープン
2002年10月	親と子のつどいの広場事業受託
2004年 7月	大倉山へ引越し
2005年 4月	大倉山・菊名2か所でひろば開始
2006年 1月	ゆーのびーの(保育と預かり)を妙蓮寺に オープン(2008年4月菊名へ)
2006年 3月	港北区地域子育て支援拠点 「どろっぶ」オープン
2007年 10月	ココめ〜る 配信

NPO法人びーのびーの設立の経緯 ②

- 保健所との通信づくり そして仲間づくり
- 地域の課題に、目を向ける → 幼稚園・保育園ガイド
- やりたいモデルが見つかる → 武蔵野市立0123吉祥寺、江東区子ども家庭支援センター「みずべ」
- 場所探し、組織作り、ミッションについての話しあい
- みんなの得意分野を活かして → 細切れでもみんなの力を合わせればこれだけできる
- やる人も来る人もいっしょに（支援の循環こそが市民力）
- 地域にはこんな面白い人がいっぱいいたんだ！の発見
- 行政との協働も信頼から お互いいい仕事している関係性をつくろう！
- 自己実現型ではなく、利益は足元の地域、まち、子育て家庭に反映されなくては意味がない
- とことん現場主義 とことん地域
- 子どもにとっての「ふるさとづくり」
- 親だけでなく、多くの人との出会いと交流、経験を通じて子どもを育てたい
- 私のしあわせ だけでなく みんなのしあわせへ



おやこの広場びーのびーの

開館時間：9時半～16時。

開館日：月～金

水 13時～17時

（休館日：土・日・祝・特別休館日）

水曜午前中はスタッフミーティング



港北区子育て支援拠点どろっぴ・・・各区に1箇所の子育て支援拠点



ボランティアとして、中学生からシニアまで男女、年齢問わず、たくさんの方が参加しています。



子どもと遊んだり
庭・畑の手入れをしたり
おもちゃづくりをしたり、
絵本を並べてくれたり
演奏をしてくれたり、etc・・・

多様な
関わり

そこにお兄さん、お姉さんがいてくれるだけで子ども達も大人もニコリ!

中学生から大学生まで学生が活躍しています



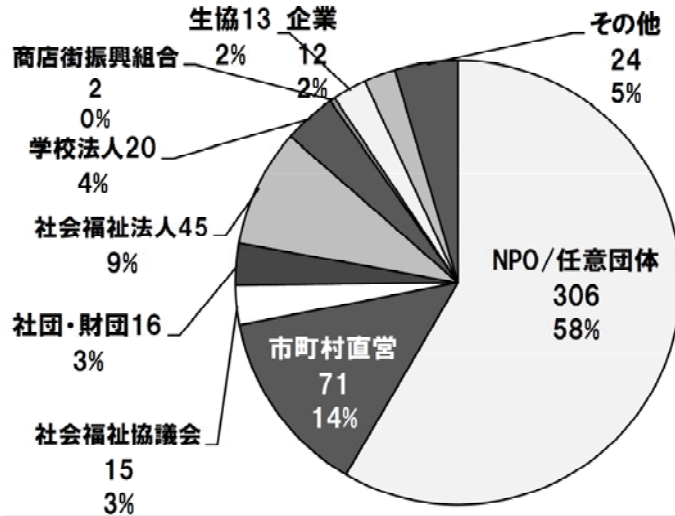
シニアボランティアも活躍しています！



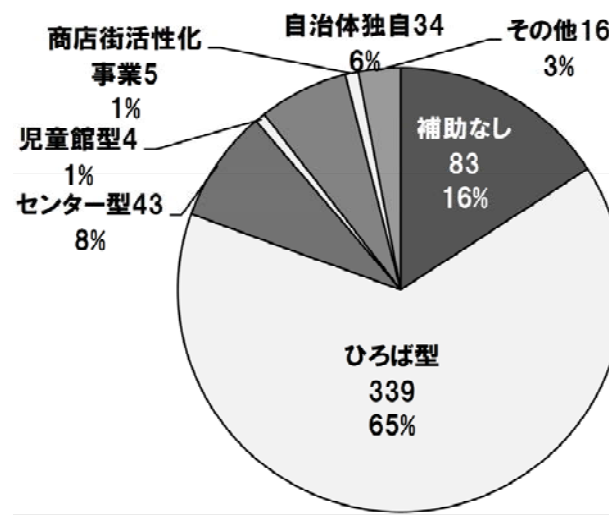
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 ～つながる・学ぶ～

会員数 567 団体会員524・個人会員43 09.8.25現在

◆運営主体（団体会員のみ）



◆行政の補助・委託・補助（団体会員のみ）



全国の会員ネットワーク
「各地のひろば」
WEB・メールでの情報提供

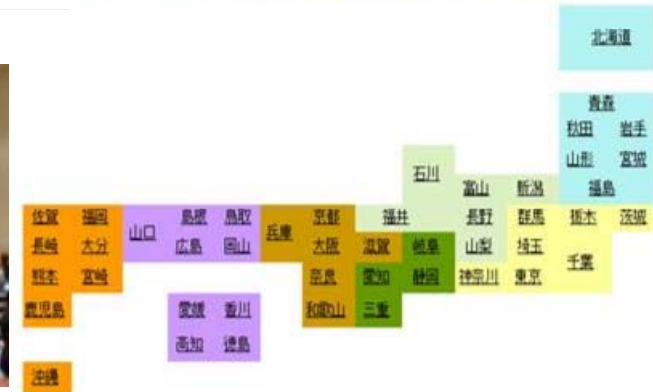


地域の中でネットワークを広げ、
みんなで子育てを応援していきたい！

全国で子育て支援に関わる皆さんとネットワークを組み、
子育て・子育てをめぐる情報の共有や相互交流を深め、
「場」をもち地域に根ざして活動することの意義を
広く社会に伝えていきたいと想います。
いっしょに活動しませんか？



◆質の向上とネットワーク形成のための
「地域子育て支援拠点研修事業」
20年度:1876名 のべ2219名全国10ヵ所)



子育てひろば全国連絡協議会の事業 ～深める・広げる～

「ファシリテーター養成講座」による講師育成・
「ひろばスタッフ基礎研修」



全国10か所のひろばに講師が赴く
「ひろばコンサルテーション」



社会にひろばを発信する
「子育てひろば
0123育ちの詩」

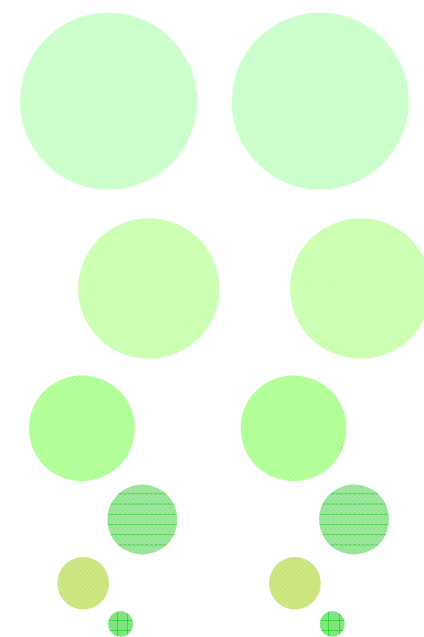
子育てひろば総合補償制度
(ひろば保険)



ガイドライン作成などの調査研究と
自主公開セミナー



●今後の子ども・家庭支援の方向性



支えあいの社会づくりへ

○乳幼児期の家族へのサポートが、子どもを大切にする社会づくりに
つながる → **最初のいっぽが大事**

○「保育に欠ける」はすべての子育て家庭に **家族内ケアの限界**

○人とのふれあいの中で育つ、**支えあいの社会へ**

・ **祖父母世代の役割** →

京都大学霊長類研究所教授の「おばあちゃん仮説」

孫と祖父母の関係は人類進化の賜物。ただし、次世代全体に関心を！

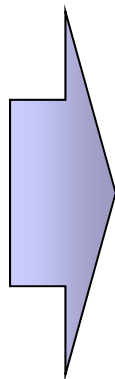
・ **学生世代** → 次世代育成 社会の形成者として

○ 2009年5月 発足

○ 2009年10月 「子育て家庭や支援現場のニーズに応える継続可能な子育て支援の仕組みづくり」を提言

にっぽんの子ども・家庭支援の課題

- ① サービスの地域間格差・不均衡
- ② ニーズに応じたきめ細やかなサービスの欠如
- ③ 保険や福祉など制度によって給付や財源構成がばらばら
- ④ 地域事情に応じたサービスが作りにくい
- ⑤ 「共助」人々の信頼やつながりが低下



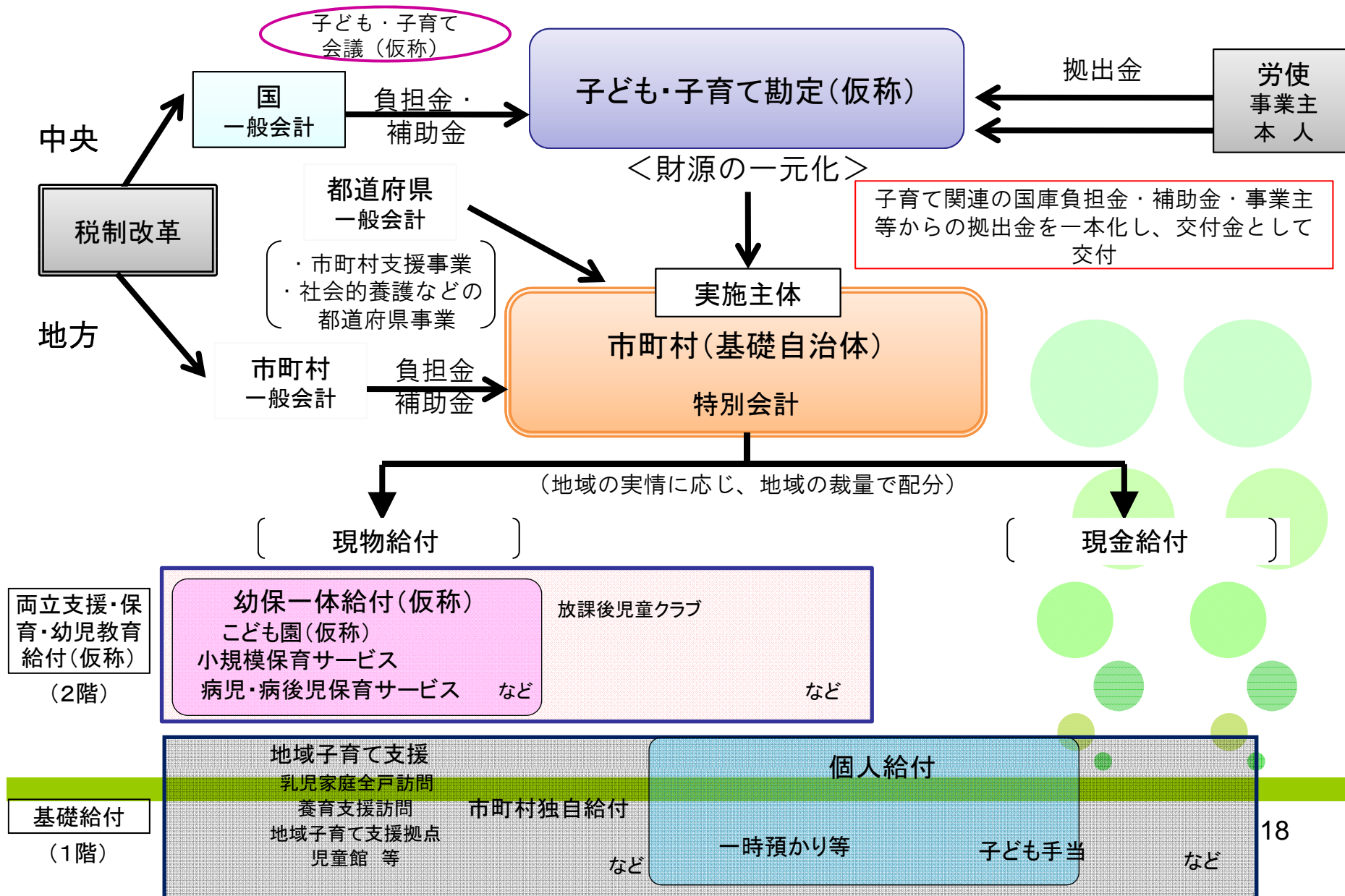
にっぽん子育て応援団 提言

- ① サービスの地域間格差・不均衡の是正
- ② きめ細やかで切れ目のない、体系だったサービス提供
- ③ 子育て家庭や支援団体、企業など多様な関係者(ステークホルダー)の参画
- ④ 一元的な給付と拠出のシステムづくりのための財源の統合
- ⑤ 地域の創意工夫と人々の信頼やつながりの再構築

多様な給付・サービスのトータルなパッケージ化
多様な関係者が参画した運営機関の設立

政府が提唱する子ども・子育て新システムのイメージ

内閣府資料より



地域(1中学校区)の子育て状況(2007年)



全国の中学校数: 10,044

0~2歳児: 約322人、3~5歳児: 約336人、6~8歳児: 約353人

認可保育所
約2.3か所(定員: 215人)
0~2歳児: 4人に1人 24%(77人)



認定こども園
約0.04か所(定員: 6人)

放課後児童クラブ
約80人
小1~3の利用率: 21%

幼稚園
約1.3か所(定員: 236人)



ファミリーサポートセンター
提供会員: 約12人



地域子育て支援拠点
約0.7か所



一時預かり
約0.6か所(延べ約348人)



病児病後児保育
延べ約31人



延長、夜間保育等
約80人



休日保育
約7人

地域(1中学校区)の子育ての将来イメージ(2017年)



全国の中学校数: 約1万

(2007年と同水準と仮定)

0~2歳児: 約300人、3~5歳児: 約300人、6~8歳児: 約300人

こども園

0~2歳児: 2人に1人(150人分)
3~5歳児: 全員(300人分)

保育所、幼稚園等から
移行



放課後児童クラブ
約150人
小1~3の2人に1人



ファミリーサポートセンター
提供会員: 約?人

地域子育て支援拠点
約1か所

一時預かり
延べ約6000人
(0~5歳児1人当たり約10回)



病児病後児保育
延べ約200人
(現在の7倍弱)



延長、夜間保育等
約100人
(就労世帯0~5歳児の2.5人に1人)



休日保育
約12人
(倍増)



提言：多様な世代がサポートしあえるまちづくり

○住民参加型のまちづくり

まちをよくしたい、暮らしやすいまちにしたい、という人たちとともに
地域福祉計画に、もっと多様な世代の参画を！
空家・空き店舗の優先的使用

○多世代の家

高齢者と子どもの日中の居場所、若者の就労の場
多世代が暮らし安いコーポラティブハウス

○住み替えしやすい住居へ

家族の規模によって間取りを変更
賃貸物件の多様化(家具つき、防音、子育て応援マンションなど)

○子育てバリアフリーのまちづくり

バス・電車・飛行機、公共施設・ショッピングセンター、駐車場など

課題

★ 町内会と市民活動団体の調整 ★ 多様な主体の共同



子どもや年配者を大切にすまちづくり

- 子どもや年配者は、私たちに多くのことを気付かせてくれる存在
- 子どもや年配者は、親や社会に幸せをもたらしてくれる存在
- 少子高齢化社会であることにもっと敏感でなくてはならない！
- 子どもや年配者が大切にされない社会に未来はない！

